



「本番」の価値

中学部副校長 須賀 一輝

9月28日、晴天に恵まれて小中一貫10周年記念きりっ子運動会が行われました。これまでの練習の成果を発揮して、競技や演技に全力で取り組む子どもたちに、たくさんの保護者の皆様や地域の方々から、温かいご声援をいただきました。ご来場の皆様の熱い視線と心温まるご声援に、児童はもとより私たち教職員も大いに励まされ、子どもたちの心に残る運動会になりました。まことにありがとうございました。

さて中学部では、学習発表会あすなろが行われました。7・8・9学年のすべてのクラスが、それぞれ1つの劇を舞台上演することに取り組みました。30名あまりのクラスのメンバーが40～50分ほどの演劇を発表するので、様々な取組と周到な準備が必要になります。脚本の選定・制作、キャスト・スタッフの割当・決定、台本の読み合わせ、大道具・小道具の作成、音響や照明の効果・工夫、演出を考えながらの舞台稽古、等々…クラスの皆が話し合い協力して、分担した仕事を着実にこなしながら調整して演劇を仕上げていきました。

たまたま同じクラスに所属することになったクラスのメンバーが、1つの劇を演じる「劇団」のようになるには、相当の活動と時間が必要です。長所を生かしながら仕事を分担し、時には異なる意見を闘わせながら話し合いを積み重ねて相互理解を深め、工夫を出し合って演出効果を吟味し、監督や演出のリーダーシップのもとに団結して、次第に完成度を高めていきます。当日の舞台が観客の方々に楽しく見ていただけるように、メッセージがしっかりと伝わるように、お客様に感動していただけるように、いろいろと考えて工夫し様々に模索しながら、より良いものを創り上げるべく努力を重ねていました。

子どもたちが全力で取り組んできた「本番」を、ご覧になりましたでしょうか。ぜひ率直な感想を伝えてあげてください。観客にどう見せるかを考え抜いて創り上げたものですが、当事者は観ることができません。客席の反応を想定して仕込んだネタや仕掛けが功を奏したか否か、中心となるメッセージが確実に伝わったか否か、気になりつつ終演を迎えたことでしょう。

運動会も学習発表会も、子どもたちが全力で取り組んできた「本番」です。やり直しはききませんし、ごまかしもできません。一生懸命に取り組んできたからこそ、たくさんの方々に見てもらえるのは嬉しいものですし、感想や批評をいただけるのは望外の幸せです。ご自分のお子様にもご近所の子どもさんにも、本番をご覧になって感じられたことを上手に伝えていただきたいと思います。（ご覧になれなかった方は、お子様が本番を終えてどのようなことを感じたのか、ぜひ尋ねてあげてください。）子どもたちを見守る皆様の温かい拍手や素直な反応、率直な感想や的確な助言、感動の一言や多角的な批評が、未来を担う若者たちのより大きく豊かな成長につながるものと確信します。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。